

第25回 さいたま市児童生徒ICTメディア作品コンクール実施要項

1 目的

本市が誕生して25周年という節目を迎え、「変革の扉を開く飛躍の年」として、技術と人間性が調和する未来志向の教育を推進する。児童生徒が1人1台端末を「自分を助ける文房具」として使いこなし、ICTを通じて自らの思いや考えを表現するとともに、多様な他者と協働して新たな価値を創造する力を育みそれを発表する場を設け、以下の2点の育成を図る。

- ①本市の児童生徒の情報活用能力の育成
- ②本市の情報教育の一層の充実・発展

2 主催

さいたま市教育研究会 ICT教育部

3 共催

さいたま市教育委員会

4 募集作品

今年度は、ICTを「自分を助ける最強の文房具」として使いこなし、届けたい相手に対してどのような価値を創造するかを重視し、以下の例を参考に部門を選択して応募してください。

① 【情報モラル部門】 ※意図に合わせて制作する。

部 門	概 要 ・ 作 品 例	提 出 媒 体
標 語	情報モラルを啓発する標語。 例) そのとうこう「こうかい」まえに かくにんを (R6 最優秀賞)	Google Form (回答)

② 【学校・まちづくり部門】

だれに	何のために (制作の目的)	具 体 例
・学校の友達 ・先生 ・地域の人 ・市役所の人	〔学校や地域の課題解決に向けた提案〕 身近な問題を「自分たちのこと」として考え、 よりよい学校や社会にするためのアイデアを提案する	・「みんなが納得して守れる新しい校則」の提案スライド ・「近所のお年寄りも安心できる街」を紹介するデジタル防災マップ ・「学校行事を今まで以上に楽しくする」ための企画プレゼン動画

③ 【学びの達人部門】

だれに	何のために (制作の目的)	具 体 例
・自分自身 ・おうちの人 ・先生	〔自分自身の学びの振り返り〕 自分の得意なことや、失敗しながらも一生懸命がんばった過程を振り返り、自分の成長を記録するため	・「総合的な学習の時間」で何度もやり直して成功した探究の記録 ・「将来なりたい自分と今の自分」をまとめたデジタル自分紹介 ・1年間でできるようになったことを1冊にまとめたデジタル成長ノート

○「一番頑張った授業の記録」をデジタルでまとめた作品等

○最終的な結論だけでなく、「最初はこう考えたが、調べたら違ったのでこう変えた」といった思考の変容プロセスがわかるまとめ

○複数の学年や期間にわたる記録を繋ぎ合わせ、「自分自身の成長の物語」として再構成した動画やプレゼン資料

○「次にどう学びを改善するか」という自己調整の意思が表現されているもの

※これまででは、コンクールのために「特別なポスター」などを一から作る必要がありました。しかし、「日々の学びをメタ認知(客観的に把握)し、整理すること」そのものを創造的な活動(メディア表現)と捉えます。日常の学習で端末に残っている写真、グラフ、文章を、「自分はこう学んだ!」というストーリーで再構成(エディット)したものが、この部門の立派な応募作品となります。

<裏面あり>

④【心を動かす部門】

だれに	何のために（制作の目的）	具 体 例
・友達 ・家族 ・世界中の人	「思いや感性をかたちにした発信」 デジタル技術やAIを上手に使用して、誰かの心を温かくしたり、驚かせたりする豊かな表現をするため	・「大好きな家族に『ありがとう』を伝える」感動メッセージ動画 ・生成AIと相談しながら作り上げた、オリジナルの物語やデジタル絵画 ・音や映像を組み合わせる自分の「好き」を爆発させたアート作品

⑤【未来創造・AI プログラミング部門】

だれに	何のために（制作の目的）	具 体 例
・海外の友達 ・困っている人 ・未来の生活者	「AI、プログラミングを通じた未来創造」 言葉や文化、体の不自由などのカベを越えてみんなで助け合い、ICTで新しい便利さを創るため	・「外国の友達にさいたま市のよさを教える」多言語ガイドサイトや動画等 ・「みんなの生活をちょっと便利にする」ためのプログラミング作品 ・AI翻訳を使い、世界中の仲間と協力して考えた未来の街のアイデア ・生活を便利にするアプリ ・AIとの共生をテーマにしたプログラム

※単純に「面白いゲームを作った」「便利な計算機を作った」という場合は、プログラミング的思考を評価するこの部門の作品になります。

5 応募条件

①さいたま市立小・中・高等・中等教育・特別支援学校に在学する児童生徒の作品に限ります。

※制作者と保護者が同意の下に出品してください。

②作品は未発表で自作のものに限ります。

③作品の制作にあたっては著作権・肖像権に十分配慮してください。

④作品形式については、以下の形式で提出してください。

- ・画像ファイル【JPEG、JPG、PNG】（3枚以内）
- ・音楽ファイル【MP3】（3GB以下）
- ・スライド、テキストファイル【PDF】（5枚以内）
- ・動画ファイル【MP4】（5分以内）
- ・スクラッチ【sb3】
- ・マインクラフト【mcworld】

⑤生成AIを利用する場合は必ず所属校に「生成AI利用同意書」の提出をしてください。利用した場合は、どの部分にどのようにAIを用いたかを必ず明記してください。

⑥提出期限までに出品してください（厳守）。

⑦作品の返却は行いません。

⑧入賞した場合、次年度に「過去の実賞作品」として掲載される可能性があります。

※応募条件に合致しない作品は、審査対象から外れる場合があります。予めご了承ください。

6 応募期間

令和8年 7月 18日（土）～ 10月 9日（金）

・児童配付用の「メディア作品コンクール作品募集について」のQRコードより作品の提出をお願いします。

7 審査

（1）審査基準

本コンクールの趣旨に沿った創造性豊かな作品

①目的の明確さ（思考力・表現力・判断力）：

届けたい相手に対して、自分の考えが効果的に伝わっているか。

②創造性：（知識・技能）

ICTの特性を活かし、新たな価値や「納得解」を生み出しているか。

③学びに向かう力・人間性（情報モラルを含む）

・著作権やAIの倫理等、情報の適切な扱いがなされているか

・作品の背景に「人間の意志」や「豊かな感性」が感じられるか。AIや既存のテンプレートに頼り切らず、自分の考えを深めた形跡があるか

(2) 予備審査会 令和8年10月26日(月)～11月16日(月)

(3) 本審査会 令和8年12月25日(金) 14:00～ さいたま市立教育研究所

(4) 表彰

○各部より最優秀賞・優秀賞・優良賞

8 表彰式

(1) 日 時 令和9年 1月23日(土) 10:00～

(2) 会 場 さいたま市立教育研究所(最優秀賞・優秀賞のみ参加)

<備 考>

(1) 優秀作品については、作品事例として紹介させていただく場合があります。予めご了承ください。

(2) 作品の制作に関してご不明な点は、担当までteams チャットでお問い合わせください。

(

問い合わせ先

コンクール実施委員会事務局(応募・作品に関すること)

さいたま市立辻南小学校

藤田 浩輔 (t01551)

さいたま市立鈴谷小学校

平野 智康 (t05753)

だい 25 かい
第25回

さいたま市 児童生徒

ICTメディア 作品コンクール

ICTはきみを助ける最強の文房具！
きみの「伝えたい」をかたちにしよう

募集部門 (5つ)

5つの部門からえらんで応募しよう！

1 情報モラル部門

だれに：みんなへ
なんのために：
情報モラルを
よびかけるため

作品例

情報モラルを
よびかける標語

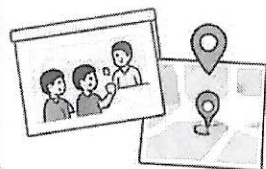


2 学校・まちづくり部門

だれに：学校やまちの人へ
なんのために：
学校やまちを
もっとよくするため

作品例

新しい校則の提案スライド、
デジタル防災マップ

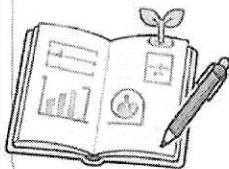


3 学びの達人部門

だれに：自分へ
なんのために：
自分の学びや成長を
ふり返るため

作品例

探究の記録、
デジタル成長ノート

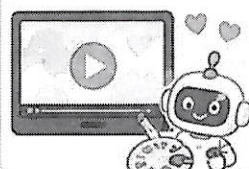


4 心を動かす部門

だれに：大切な人へ
なんのために：
だれかの心を
あたたくするため

作品例

家族への「ありがとう」動画、
AIと作った物語や絵

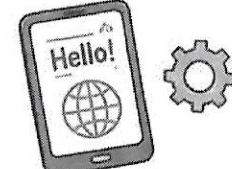


5 未来創造・AIプログラミング部門

だれに：みんなへ
なんのために：
AIやプログラミングで
新しい便利をつくるため

作品例

多言語ガイド、
生活を便利にするアプリ



応募のやくそく

- ✓ さいたま市の児童・生徒であること
- ✓ おうちの人の同意が必要
- ✓ 未発表で、自分で作った作品であること
- ✓ 生成AIを使う場合は「生成AI利用同意書」を学校に提出し、どこにAIを使ったか明記すること



提出できるファイル

が ぞう
画像
(JPEG/JPG/PNG)
3枚以内



おん がく
音楽
(MP3)
3GB以下



スライド・
テキスト
(PDF)
5枚以内



どう が
動画
(MP4)
5分以内



スクラッチ
(sb3)



マインクラフト
(mcworld)



応募期間

令和8年

7月18日(土)~10月9日(金)

応募方法

①~④部門の応募



⑤部門の応募

